

発行 わがまち大田  
 六郷地区推進委員会  
 編集 「六郷わがまち」編集委員会  
 事務局 大田区六郷特別出張所  
 〒144-0055  
 大田区仲六郷 2 - 42 - 2  
 電話 03 (3732) 4885 (代)

# 六郷わがまち

六郷特別出張所管内	
人 口	男 31,895 名
	女 30,047 名
	計 62,009 名
世帯数	27,716 世帯
平成 11 年 6 月 1 日現在	

## 六郷地区の三つの中学校

六郷地区には大田区立の中学校が3校あり、現在1552名の生徒が学んでいます。ここ数年、各校とも生徒数の減少が続いていますが、それはかえって「ゆとりある教育」の真の実践をうながし、21世紀に向かって羽ばたく若者たちの個性を育て、勇気と希望を与える人間教育への期待につながるのではないかと。編集委員がルポした現況です。



### 六郷中学校

〔所在地〕 仲六郷三丁目11-11

☎ 3732・9338

〔開 校〕 昭和22年5月5日

〔校 長〕 折笠令吉先生

〔職員数〕 39名〔学級数〕 11

〔生徒数〕 403名(男子204名、女子199名)

〔学区域〕 東六郷三丁目9〜26番、仲六郷二・四丁目全域、仲六郷三丁目1〜27番、西六郷二丁目46〜58番、西六郷三・四丁目全域。

〔PTA会長〕 野村和子氏

〔教育目標〕 1、情操豊かで、研究心旺盛な生徒を育てる。2、勤労を尊び、責任感の強い生徒を育てる。3、健康明朗で、礼儀正しい生徒を育てる。



〔校 歌〕 作詞・五味保義 作曲・下総皖一 昭和28年9月1日、校章と共に制定。

ゆたかにめぐる多摩川の／岸の東にとどろく巷／生気みなぎる六郷に／わが学び舎はそびえたり／見よ晴れたる西空に／かがやき立てる富士の嶺の／雪にたぐいていや清き／月の桂の花匂

う／われらが校章高くかかげて

／讃えむ母校／永久に栄えあれ

〔特 色〕 昭和22年3月、学制改革にともなう義務教育6・3

制の施行により、六郷地区に初めて設立された新制中学校。現在、高校進学は65%が公立、35%が私立。部活動として盛んなのはテニス・バスケット・吹奏楽など。開校以来の卒業生は13、947名を数える。

開校時、この中学は高畑中学校と称し、終戦直後のこととて空襲で一部焼け残った六郷小学校内に併設され、その後、富士飛行機青年学校(仲四)、宮田製作所講堂(東二)、高畑小学校(西三)などを転々とし、昭和28年7月1日、校名を六郷中学校と改めて現在地に移った。当初の並々ならぬ苦労が思いやられる。

これを機会に、美術の名塚辰弥教諭が「郷」の字を圖案化し、その中に校歌にちなむ月桂樹の花をあしらって制作したのが、現在の校章である。



### 志茂田中学校

〔所在地〕 西六郷一丁目4-10

☎ 3732・9318

〔開 校〕 昭和35年4月1日

〔校 長〕 山田日出雄先生

〔職員数〕 41名〔学級数〕 14

〔生徒数〕 433名(男子213名、女子220名)

〔学区域〕 西六郷一丁目全域、西六郷二丁目1〜45番、仲六郷一丁目全域。

〔PTA会長〕 井上文男氏

〔教育目標〕 ○自ら学び考え深い生徒を育てる。○思いやりのある生徒を育てる。○礼儀を重

んずる生徒を育てる。○健康と安全に留意する生徒を育てる。

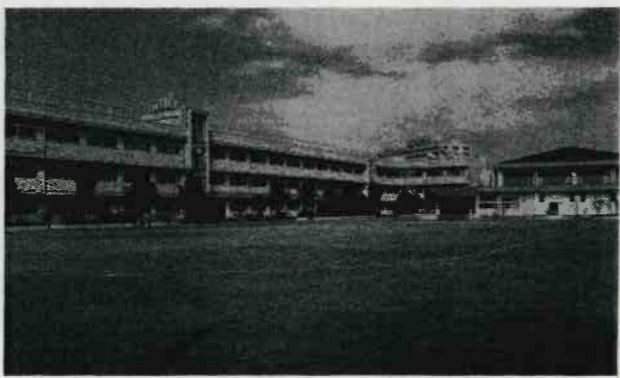
○進んで働く生徒を育てる。

〔校 歌〕 作詞・高橋掬太郎

作曲・江口夜詩 昭和36年1月制定。

一、気高き富士を朝空に／仰ぎて我ら胸を張る／若き生命にみなぎる力／いざ学ばん正しく深く／志茂田中学わが中学

(二、三略)

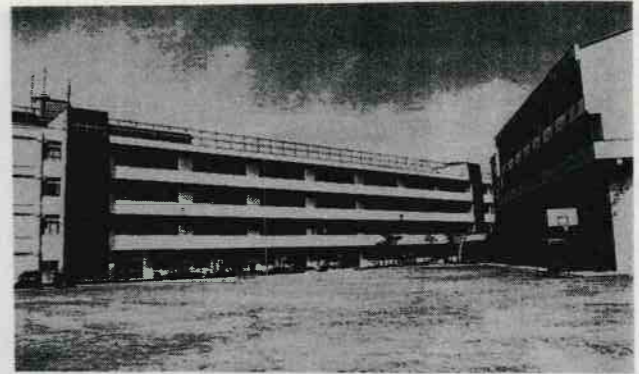


〔特 色〕 世界的に知られた大倉陶園が移転して間もなく、4000坪に及ぶ跡地に、志茂田小学校と共に誕生した大田区では24番目の区立中学。当時1教室70数人という過密な六郷中学校からの「分家」であった。そうしたわけで校章は、六郷中から転任された名塚辰弥教諭が、自家の六郷中では月桂樹の花を配したので、分家の志茂田中では葉をあしらひ、学問の象徴であるペンを大きく中心にすえたデザインを考案、昭和35年4月6日に制定された。現在、高校進学率は公立65%、私立35%。27ある部活動のうち最も活発なのは男女テニスで、平成10年度の第9回全日本ジュニアソフトテニス大会男子一年生の部で優勝している。生徒数はやはり減少傾向を続けている。これまでの卒業生9179名。

# 南六郷中学校



〔所在地〕南六郷三丁目2-1  
 ☎ 3732・9351  
 〔開校〕昭和37年4月1日  
 〔校長〕菊島 進先生  
 〔職員数〕43名〔学級数〕19  
 〔生徒数〕716名(男子398名、女子327名)  
 〔学区〕東六郷一・二丁目全域、東六郷三丁目1〜8番、仲六郷三丁目28〜32番、南六郷一・二・三丁目全域、南蒲田二丁目23〜24、29〜30番、萩中一丁目1〜3、12〜14番。



〔PTA会長〕石川義勝氏  
 〔教育目標〕○健康で、思いやりがあり、実行力のある生徒を育成する。

〔校歌〕作詞・宮沢章二 作曲・福井文彦 昭和37年10月13日制定。

一、むかしぶどうの実る里／今知恵の実の育つ窓／自律の風もあたらしく／多摩の流れに夢あふれ／南六郷花ひらく

(一、三略)

この地が昔、梨桃と共にぶどうの産地だった歴史をふまえ、かつては与田準一氏の「ぶどうのように／一つ一つがまるく／ぶどうのように／みんな一つ／ぶさを作って／ぶどうのように／ゆつたりとしてにおいもあまく／ぶどうのように／喜びを人から人へ」という詩から、三つの校訓を読み取った柏谷静馬初代校長の発案にもとづく。校章は、美術の山本ひろの教諭が、

その校訓を三枚のぶどうの葉でデザインしたもの。

〔特色〕生徒数が大田区内では一番多い。高校進学は公立40%、私立60%の割合。部活動がとて盛んで、運動部13、文化部13のうち、陸上・バレーボール・野球・バトミントン・バスケット・演劇などは、区大会やブロック大会、都の大会で優秀な成績を収めている。生徒会活動も盛んで学校行事だけでなく、城南看護学校との交流活動や地域の美化活動も行っている。

正門脇にある2本の棕櫚の樹は、開校当時、PTAの役員が仲六郷一丁目の旧家から譲り受け、リヤカーで運んで移植したもの。以来、学校のおゆみを見守り続けている。

## やすらぎの小径 その2

編集委員 高橋ハルヨ

### 珍しいキササゲの木

第19号で紹介した「やすらぎの小径」は、さらに六郷図書館の南側の路地へと続く。そのとばくちの木立の中に、キササゲという珍しい木がある。相当な古木らしいが太くはない。路地は舗装されて根が張れず、南側は建物によってまったく陽が差さないという悪条件だからだろう。そのうえ、大きな傷を自分で治したらしい跡もあって痛々しい。それでも太陽を求めて上に伸び、路地をへだてた六郷保育園の庭の空中を、わがもの顔に枝葉を広げている。



たれさがるキササゲの細長い実

この木は水辺に育つと聞いていたので、ここにあることをかねがね不思議に思っていたが、ここも六郷用水の流れていた掘跡だと知って納得した。

キササゲはその名のとおおり、

### 六郷用水の吐け口跡

8〜9月ごろ、サイインゲンそっくりの30cmもある細長い実をたくさん付ける。この実は、むくみを治す民間薬として昔から使われ、腎炎や脚気などによく利いた、という。

キササゲの木を見返りながらバス通りに入る。羽田方面へ少し歩くと南六郷小学校がある。いかめしい扉もなく、校舎は生け垣にかこまれていて、校門の真正面には太いクスノキがでんと腰をすえ、その根方にはプラントアの草花がいつも咲いていて心がなごむ。

シダレザクラ、ウメ、ハナズオウ、カリン、ユズリハ、サルスベリと、その周辺の緑の空間とマッチしているのが、バス通りの並木であるマテバシイの木。その並木にそって、ゆつくりと歩いていく。

舗装されていない歩道の左側には、名札をつけたサクラ、モミジ、ハナミズキ、ヤマモモ、ケヤキの木などが植えられ、その下ではツツジ、レンギョウ、シャリンバイ、ツバキなどが豊かに育っている。

しばらくすると、「六郷用水物語」の大きな案内板の立つ一

## 六郷の草たち ⑱

夏の六郷川原の水辺に群生するサンカクイは、三稜の緑色の茎を70cmほどの丈に、ピンと伸ばしている涼しげな草です。先端に、茶色の小さな穂を数個つけます。



### サンカクイ

(カヤツリグサ科)

40年も前の六郷川原の植物記録に「サギノシリサシ」という名で記されており、この草に鷺が舞い降りる情景を思い描くと、ユーモアのある名付けだなあ、と感心してしまいます。

(古屋のり子)

### ベニイロトチノキの花

その先の四つ角を左に曲がる。南六郷中学校を経て国道へ出る道だが、曲がってすぐ右に折れる道がある。5月中旬、その三



花ざかりのベニイロトチノキ

紅色の大きな花が咲いている。ベニイロトチノキの花だ。

大木なので2階の屋根をはるかに越えて葉が茂り、その重なり合う葉の上に、はなやかで大きな房のような花が、それこそ数えきれないほど、みんな上向きに立ち上がって咲いている。

これがどこかの公園にでもあったら、とくに名物の木となり、花見の人が絶えないことであろう。その家のご主人は「ご近所に迷惑かけますから、枝を伐りつめようと思ってます」と、おっしゃっていたが、それを聞いて私は、ああ惜しい、もったいない、という気持ちで胸がいっぱいになった。(終)